



新発田市立紫雲寺小学校

学校だより

10月15日号

<http://shionjies.shibata.ed.jp>

自分の命を守る

校長 土田 志津子

校門の桜の葉が、日当たりのよいところから色づいてきました。紅葉は、一日の最低気温が8℃以下になると始まるそうです。冬に向けて葉を落とすための準備です。この季節になると、葉と茎に間に離層ができ、光合成で作られた糖は葉に留まります。この糖から赤い色素のアントシアニンができて、葉は赤くなるそうです。そして、葉はやがて、離層の所から切り離されて落葉になるわけです。自然界の命の営みは、無駄が無く見事だなあと感心します。

さて、10月4日に、地震と津波を想定して、紫雲寺中学校と合同の避難訓練をしました。

「いつもより緊張感をもって真剣に取り組んでいる様子があった。終わった後も、『何か怖かった。』等々と言う子どもが、何人かいた。想像したら怖くなったと話していた。真剣に向き合っている証拠だと思った。」と、当日の日番日記に記されていました。

津波を想定した訓練は初めてでした。また、中学生と合同の避難訓練も初めてでした。その中で、上記のような感想をもった子どもたちがいたことに嬉しく思いました。

東日本大震災のような津波は、新潟には、絶対来ないとは言えない。紫雲寺小学校は海拔9M、中学校は8.5M。藤塚小学校では、校区の中では海拔が高い所に建てられていますが、海や川から近いことや校舎が古いこともあり、より切実な避難訓練をしています。県からの防災教育の指定校にもなっています。米子小学校は、加治川を伝って来る津波を警戒しているようです。いずれにしても、地震だけの訓練では、不足であるということです。紫雲寺地区4校も、想定外の想定をして、避難訓練を進めていこうと考えています。

夏休みに、防災教育で有名な群馬大学の片岡敏孝教授の書いた「釜石からの教訓」を、たまたま読んだのですが、「釜石の奇跡」と言われる所以が理解できました。防災教育と訓練が、そういう子どもたちを育てたということです。

釜石の小中学校で行われていた防災教育の「命を守るための三原則」に、次のような内容がありました。

① 想定にとらわれるな！

〔ハザードマップでは、自分の地域（我が家）は、大丈夫と安心して逃げないのはだめということ。うちはセーフ、とか、うちはアウトという意識では、命を落とすということ。〕

② その状況下において、最善を尽くせ！

〔できることは、避難することだけ。究極は、高台に逃げること。〕

③ 率先避難者たれ！

〔「危ない」とか「避難」とか言って、まず自分が逃げる。それにつられて、周りの人間が避難する。実際、下校途中の小学生のそういうざわめきと避難している様子につられて、近くの住民が家から出てきて避難したそうです。〕

いつでも近くに大人がいるとは限りません。大事なことは、いざと言うときに、子どもが自分で命を守るようにすることです。そのために、わたし達大人の危機意識も大事になってきます。下校中でも、津波が来ると思ったら、迷わず、高いところに（中学校の3階に）逃げるができる子どもたちを育てていくことだと思っています。